

研究計画書

| |
|--|
| 研究者：聖隷袋井市民病院 5階病棟 片岡祐希 共同研究者：聖隷袋井市民病院 5階病棟 藤崎知里、古橋美咲、川端聡恵、鈴木寿子 |
| 研究テーマ A病棟における看取り看護の現状と課題 ～デスカンファレンスを振り返って～ |
| 研究の背景・意義（先行研究及び関連文献の検討を含めて記述する） A病棟は医療型療養病棟であり、長期療養を目的とした患者が入院している。その中で看取りの患者数は2020年度28名、2021年度25名、2022年度35名と増加の傾向を示している。A病棟では、2018年から「療養病棟で亡くなった患者・家族との関わりから看護・ケアを振り返り、スタッフの思いを表出し、ケアの質の向上に繋げる」ことを目標としデスカンファレンスを実施している。逝去後1週間頃、所定の書式を用いて「担当看護師が患者・家族の思い要望に沿った対応ができたか」、「苦痛・不安に対し緩和ケアができたか」、「楽しみが持っていたか」、「家族との関わりはどうだったか」、「意志決定、ICのタイミングはどうだったか」の内容について多職種で振り返っている。 小野はデスカンファレンスの目的は「ケアの振り返りを行い今後のケアの質の向上を図る」「今後の課題を確認する」「遺族ケアの方向性を決定する」「スタッフへのケア」としている。また、宮下はデスカンファレンスの論点は「患者の身体的・精神的症状コントロールは適切であったか」「患者のスピリチュアルな苦痛への対応はどうだったか」「患者・家族の希望は達成したか」「家族の関係性やケアは適切であったか」「家族の病状認識はどうだったか」「患者・家族の治療に対する思いと医学的適応の関係」「意思決定の過程」「患者のケアで困難だった点」「患者のケアでうまくいった点」「看護師が悩み苦しんだケース」が論点に上がることが多いと述べている。 A病棟のデスカンファレンスでは、症例の振り返りを行っているが、その内容を可視化することがなかった。そこで、今回デスカンファレンスの内容を分析、考察することでA病棟の看取り看護の現状と課題を明らかにし、ケアの質の向上につなげていくこととする。 |
| 研究の目的 A病棟のデスカンファレンスの現状を分析し、看取り看護の質向上につながる課題を明確にする。 |
| 研究方法 1 研究デザイン 調査研究 デスカンファレンス記録の後ろ向き調査 2 データ抽出期間 2022年4月1日～2023年3月31日 3 研究対象者 2022年4月1日～2023年3月31日までの期間にA病棟で逝去（死亡退院）した患者のデスカンファレンス記録及びA病棟職員の記録 |

| |
|---|
| <p>4 研究期間</p> <p>臨床研究審査承認後～2023 年 9 月 30 日</p> |
| <p>5 研究方法</p> <p>該当期間に開催されたデスカンファレンスの記録から「担当看護師が患者・家族の思い要望に沿った対応ができたか」、「苦痛・不安に対し緩和ケアができたか」、「楽しみが持っていたか」、「家族との関わりはどうだったか」、「意志決定、ICのタイミングはどうだったか」「その他」の各項目についてカンファレンスの内容を抽出しできた事、できなかった事を明らかにする。</p> |
| <p>倫理的配慮</p> <p>本研究は、袋井市立聖隷袋井市民病院倫理委員会の承認を得て実施する。収集したデータは、本研究以外で使用しない。研究で収集した全ての紙媒体及び電子データはデータ収集を行った順に ID 化し個人が特定できないよう匿名化を行う。データの抽出から分析の過程でインターネットに接続可能なパーソナルコンピュータ上には保存せず、パスワードロックをかけた USB メモリに保存する。データは院外に持ち出さない。保管は、院内の施錠可能な場所で研究終了後 5 年間厳重に保管し、その後、電子データは媒体から完全に削除し、紙媒体はシュレッダー処理により粉砕する。</p> |
| <p>同意書の手続き</p> <p>本研究は診療録を用いた調査研究であるため、研究対象者から文書あるいは口頭による同意取得は行わない。但し、人を対象とする医学系研究に関する倫理指標で示されている「インフォームドコンセントを受けない場合において当該研究の実施について公開すべき事項」の公開と被験者または代諾者に研究参加拒否の機会を与えるため、オプトアウトについての資料を提示する。</p> |
| <p>結果の公表予定</p> <p>第 14 回せいい看護学会にて発表（2023 年 9 月 16 日）</p> |
| <p>引用・参考文献</p> <ol style="list-style-type: none">1) 小野芳子他(2010). 山口赤十字病院緩和ケア病棟でのデスカンファレンスの実践, 看護技術, 56 (3) .742) 宮下光令(2010). デスカンファレンスのまとめ. 看護技術. メディカルフレンド社. vol. 56 No143) 縄陽子ら (2004). 療養病棟における終末期の役割を考える～8 例の患者を看取って～. 厚生連医誌第 13 巻 1 号 63-664) 小松朋子 (2017). デスカンファレンス導入による看取りに関する意識の変化. 第 47 回 (平成 28 年度) 日本看護学会論文集 慢性期看護 (2017) 47-50 |

研究計画書の提出日 2023 年 4 月 17 日